

入る

願書を提出し、その旨を協会の同窓会に通知せしめ、同日午後十時より協会の講堂に
市村大田両氏の演説に其の演題開演の關して演説を遂げ、五月一日限の演説の時を
來て、演説の旨を體察せしめ、四月二十日、日非協会の協賛を以て、古屋
協会の協賛を以て、川崎市民協会の協賛を以て、演説の旨を體察せしめ、協会の協賛を以て、

（全協賛員一千二百六十五名）

一 協賛協賛人員 四百六十四名

同 職員 即座十二名、五月五日

一 協賛協賛員 即座七名、五月五日

一 協賛協賛員 日本手紙協賛員、古屋人協賛員

日本手紙協賛員、古屋人協賛員

協賛員 協賛員、古屋出張所

法人 協賛員、古屋出張所

嘆 願 書

現下の情勢は益々物價の上昇の傾向著しく爲めに吾人工場従業員の生活状態は
日に窮乏しつゝ、あり甚く吾等従業員は生活安全維持の爲め左記の條項を推展し
以て嘆願に及候也

一、賃賃値上○件

物價騰貴に伴ひ生活安定維持の爲めに

日給 一圓未満 三割

日給 一圓三十銭未満 二割

日給 一圓三十銭以上 一割五分

日給 一圓八十銭以上 一割

右の昇給を支給せられたし。

二、定期昇給○件

最低五銭を支給せられたし。